

南信州広域連合第12回広域連合会議 結果報告

日時：平成29年3月14日(火)14:40～15:53

場所：長野県飯田合同庁舎 3階講堂

1 開 会…14:40

【出席者】13市町村長・喬木副村長・佐藤副管理者

〔下伊那地方事務所〕山本所長・布山副所長・今井地域政策課長・細野地域政策課長補佐兼企画振興係長

〔飯田建設事務所〕西元所長

〔飯田保健福祉事務所〕寺井所長

〔飯田市〕北沢リニア推進部長

〔南信州観光公社〕高橋代表取締役社長

〔阿智昼神観光局〕白澤代表取締役社長

〔町村会〕牛久保事務局長

〔飯田広域消防〕三石消防次長兼飯田消防署長・有賀総務課長

〔飯田環境センター〕田見事務局長・北原事務局長補佐兼庶務係長兼新焼却施設整備担当専門主査

【事務局】渡邊事務局長・塚平事務局次長・北原事務局次長補佐兼庶務係長・秦野事務局次長補佐兼広域振興係長・下島介護保険係長・前沢庶務係主事

2 広域連合長挨拶

先程は「南信州地域の安心・安全の確保に関する協力協定」の調印式を開催し、郵便局及び飯田信用金庫の皆様方と協定を結ぶことができたことを嬉しく思う。郡市民の安心・安全のため、それぞれの皆様方に引き続きよろしくお願ひ申し上げる。

昨日は広域連合及び広域連合議会の連名で、県警本部及び知事に対して要望活動を実施した。県警本部に対しては、(仮称)南信運輸免許センターに係る現南信州・飯田産業センターへの誘致について。知事に対しては、リニア時代にふさわしい施設としてのコンベンションアリーナ(県営屋内体育施設)及び阿南学園の改築について。この要望を機に、当広域連合としては目標の実現に向けた活動をしっかり行っていきたい。皆様方にもよろしくお願ひ申し上げる。

3 協議・報告事項

(1) 今後の観光振興の進め方に関する意見交換

…資料1による説明(渡邊事務局長)

はじめに趣旨を説明。「観光」は非常に重要なテーマであり、伊那谷自治体会議の中でも大きなテーマとして扱われている。その中で南信州の観光振興の進め方について、組織のあり方も検討していく必要がある。本日は南信州観光公社・高橋社長と阿智昼神観光局・白澤社長にお話をいただき、意見交換ができればと思う。今日をきっかけとして、新年度の当地域のあり方について具体的に考えていきたい。よろしくお願ひ申し上げる。

…資料1による説明(秦野事務局次長補佐兼広域振興係長)

南信州観光連携プロジェクト会議において広域観光のあり方について協議してきた。地域資源を活かした体験型観光など、重層的な取組により交流人口増加に向けて広域連携が急務となっている。プロジェクト会議事務局としては「国が推進するDMOの構築が必要である」との意見が出された。DMOについては、地方自治体と連携して広域的なマーケティングやマネジメントを行う法人とされており、観光庁では、複数都道府県に跨る区域を対象とする「広域連携DMO」・複数自治体に跨る区域

を対象とする「地域連携DMO」・単独自治体の区域を対象とする「地域DMO」に区別される。当圏域では14市町村と民間団体が出資して「南信州観光公社」を設立した実績があり、地域連携DMOを構築する原動力となり得ると考える。地域連携DMOは、自治体等と連携し民間主導で観光を中心に据えながら、南信州圏域として交流人口増加のためのあらゆる取組の核となるもの。すでに地域DMO候補法人として阿智昼神観光局、地域連携DMO候補法人として南信州観光公社が観光庁に登録されている。現状と今後の方向性について、それぞれお話をいただきたい。

…資料1による説明（高橋代表取締役社長）

南信州観光公社は、体験型観光を中心として一般的なツアー対応・教育旅行等を行い、地域振興のために努力している。市町村の皆様方の協力や行政職員の皆様方の理解をいただき、今年で17年目。

DMOについては、ひとつのモデルとして国の機関から調査をいただいており、今回地域連携DMO候補法人として登録されている。これまで培ってきた様々なノウハウや今後の発展に向けての協力をいただきながら進めさせていただく。

「旅の新たな価値の創造」に向けた努力を惜しまず、これからも取り組んでまいりたい。現在の旅行事情について、旅行会社から発生する旅行は全体の1割程度だが、総旅行延べ人数は約40億人であり、1割と言えども大きな市場であるため、もっと新しい旅を提案して価値を創造して、関連する機関と連携しながら飯田下伊那からリードしていく中心として取り組んでまいりたい。

DMOの取組自体まだ先が見えないところもあり、また馴染みのない言葉ではあるが、南信州地域で約20年にわたって繰り返されてきたことが今全国でそれをモデルとして取り組んでいこうという流れになっている。他地域に負けないよう、協力をいただきながら努力してまいりたい。

…資料1による説明（白澤代表取締役社長）

DMOをつくるための組織づくりではなく、「地方創生に向けてDMOで何をするか」というところから阿智昼神観光局は始まっている。この地域が直面する人口減少等の問題に対して、我々は観光の振興によって地域への定住を増やすことに取り組んでいる。交流人口を増やすことでまずは南信州を知ってもらわないといけない。現在南信州観光公社が行っている上質な旅行や体験ツアーは良いアイテムだが、果たしてそのアイテムを特化したところで当地域が抱える問題を解決できるのかどうか。

「将来の人口減少を観光によって解消する」ということが地方創生のDMOの根本的な問題である。組織や会社をつくってDMOをやるのではなく、その地域の問題を解決するためにどのような観光振興をするのか。まず問題を認識した上で観光振興をどのように取り組んで、その先の定住や雇用の問題も含めて考えていくということになると思われる。

阿智昼神観光局は、2060年までに5,000人の村内定住を図っていこうとしている。現在の人口6,500人から減ったとしても、5,000人という自治体として存続するだけの価値のある人口を何とか確保するために、観光振興によってどのように解決するか阿智村長も含めて取り組んでいる。そのひとつとして阿智昼神観光局という地域DMOの会社をつくった。そして圧倒的な交流人口を阿智昼神に訪れもらう。多くの交流人口が当地域に滞在することにより、地域の経済活動は活発化する。現状阿智は昼神温泉だけがあってその他のインフラ事業はほぼないが、多くの交流人口が来て需要が高まればそこに新しい産業が生まれる。我々は村の皆様方の協力をいただき、これから飲食店や物販等の多くのスモールビジネスを村内につくっていこうとしている。これにどんな意味があるかということ、最終的に我々は定住人口を目指しているが、定住するためには働かなければいけない。そのために我々は100人を雇用する大きな工場を誘致するのではなく、100人が雇用できる100のスモールビジネスをつくろうと考えている。それは観光産業でなければ生まれない。小さな産業でも50軒の新しい企業が立ち上がれば50人の雇用が生まれ、50人が雇用できる産業があれば人は定住に動いてくれるはずである。その前段で、飯田下伊那の認知度を上げるために阿智村は「星空」に取り組んでいる。星によって阿智の良さを知った上で、仕事や環境が整えば「住みたい」という意識は生まれてくると思う。

南信州観光公社のような市町村全体が参画して地域連携していくという志は良いと思う。ただ、上質な旅行だけで観光公社としてのDMOの使命が果たせるのかどうか。地域が抱えている問題を解決できるのかどうか。今の状況では当地域が抱えている根本的な問題を解決するには至らない。例えば当地域への滞在を2泊3日・3泊4日となるような観光体系を目指すべきである。泊まって滞在すれば当然お金が落ちる。このお金が落ちるシステムをつくらなければならない。そしてそれぞれが同じ

ことを目指していかなければならない。例えば「泊まる場所は阿智、遊ぶ場所は飯田」というように、それぞれの地域がそれぞれの資源を最大限に活かした目的地をつくれれば良いと考える。要するにそれぞれの地域が2泊3日・3泊4日できるような地域づくりをするべきである。旅行というものは早く着いて長く滞在できる地域があれば間違いなく勝てる。リニアが開通すれば、あとは長く滞在できる地域をつくるだけである。「泊まりは〇〇村・アクティビティは〇〇市・食事は〇〇町・歴史は〇〇村」というように、広域連携の中でそういった商品をきちんと作り上げて、長く滞在できる地域をリニアが開通するまでの約10年のうちにつくり上げるべきである。そうすれば観光産業によって地域が活性化されて、直面する人口問題に対して何らかの手は打てると思う。そのため、南信州観光公社はもっと発展させなければいけない。

今年JRが行う「デスティネーションキャンペーン(DC)」とJTBが行う「日本の旬」という2大キャンペーンが長野県で開催される。特にDCにおいては我々は何年も前から準備をしてきた結果、昨年のプレDCでは全体の旅行会社の8割以上が南信州を最初の視察地として選んだ。これは「南信州には隠れた素晴らしい資源がある」ということがだいぶ認知されてきたからだと思う。南信州観光公社はこのチャンスを正面から受け止めて、つくり上げなければいけない。まず我々はJRの路線も含めて阿智を中心に取り組んでいるが、当地域の観光の中心である飯田市が最終的にはリードする必要性が迫っていると思う。

リニアに向けての残り10年、地域づくりを観光抜きで考えるわけにはいかない。観光産業が目指す「多くの交流人口を当地域に長く滞在させる」ことは、間違いなく現状の問題を解決する手助けになるはずなので、ぜひ南信州観光公社への財源投資及び人的登用を積極的に図っていただきたい。そうしないと10年後のリニア時代に向けて、観光による地域づくりは進捗しないと素直に思う。

【質疑】(深津松川町長)

松川町もDMOを目指して準備室ができています。なぜDMOを考えたかというところ、それぞれ地域を発信していくため。しかし行政がPRに出ることはどうしても短編的であり、総合的・戦略的に地域の観光をどのようにしていくかというところまで至っていないという欠点がある。そこで別組織がいるということで一般社団法人を目指して昨年10/1から準備室が立ち上がり、住民を巻き込んで戦略会議等を行っているが、「我が町のブランドは何か」といった初歩的なところから取り組んでいるのが現状。リニア時代を迎える中で、14市町村はそれぞれ観光協会や担当課があって一生懸命発信している。その点と点をつないで取り組んでいく組織は、今考えられるのは南信州観光公社だと思う。先程述べられた地域課題は非常に重要で、今日のやりとりだけでは終わらない問題である。それぞれの持っている宝の良いところをどのようにアピールして連携していくか。連携の方法は現状では土台がないので、もっと話し合いをしていくべきである。こういった場を今後もぜひ設けてほしい。

【応答】(渡邊事務局長)

形の問題・中身の問題もあるため、今日をきっかけとして新年度から多面的に議論しながら実践に移していきたい。

(2) リニア工事に係る地元活用の要望について(広域・商工会議所・商工連)

…資料2による説明(北沢リニア推進部長)

JR東海の社長に対する南信州広域連合・飯田商工会議所及び長野県商工会連合会南信州支部の3者での要望。主な内容は、リニア事業実施にあたり地元業者の活用を要望したいとするもの。(要望書朗読)建設業者のみならず、様々な段階の中で地元業者を活用いただきたいとするもので、そのあたりについて具体的に説明を加えさせていただいている要望文書とした。現段階においては、飯田下伊那のトンネル関係はすでに業者発注がなされ、関係者の宿泊をはじめとする資機材調達に係る計画や準備がなされようとしており、一部で作業員宿舍の建設等が行われている。このことから、要望の時期としては現段階で適宜であると思う。よって本日確認をいただければ早速日程調整を進め、4月下旬を目途に要望活動を実施したい。要望先は、JR東海名古屋本社に出向いて名古屋建設部長に渡すことを考えている。当広域連合からの参加者については、事務局を通じて後日調整したい。

【質疑なし】

(3) 産業振興と人材育成の拠点整備について

…資料 10 による説明（佐藤副管理者）

第 1 期工事の進捗状況について。外壁の塗り直しや青いタイルの貼付など、外観が整ってきている。内装についても信大の教室の準備や着氷試験機のスペースの整備など、順調に進捗している。3/28 に第 1 期工事の完了検査を終える予定。その後、信大の備品の搬入等を行い、4/22 の開講式に向けた準備を進めていく。

第 2 期工事の状況について。2/24 に地方創生拠点整備交付金の交付決定を正式にいただき、3/9 に入札を行った。その結果を経て、3/23 に飯田市議会第 1 回定例会の最終日に建築工事の契約議案を提出する予定。

【質疑なし】

(4) 飯田環境センターから「応急仮設住宅建設候補地の指定について」について

…資料 3 による説明（田見事務長）

飯田市からの依頼。地震災害時等において速やかに応急仮設住宅の建設に着手するため、予め建設候補地を指定しておく作業を進めている。飯田竜水園にある竜水公園の中にゲートボール場があり、この場所を応急仮設住宅の建設候補地としたいとするもの。面積は約 1,500 m² (500 坪弱)。飯田市が地元関係者及びゲートボール場使用者へ説明を行い、了解を得ている状況。検討の程、よろしく願い申し上げる。

【質疑なし…異議なし】

(5) ism-Link 運用規約の制定について

…資料 4 による説明（塚平事務局次長）

「飯田下伊那診療情報連携システム運営規則(第 2 版)」が完成した。新年度からシステムの参加事業者に介護関係事業者及び行政機関(地域包括支援センター等)を含めた。システムの管理・運営方法については、ism-Link 運営小委員会が責任を持って行うこととし、最終決定は南信州広域連合が行う。参加者への技術的なサポートについては、これまでどおり飯田市立病院地域医療連携係が担う。プライバシー管理については、患者情報の保護を第一に行っていくために参加いただく患者及びその家族から同意書をいただく。この同意をいただいた方のみ情報共有させていただくことを前提とする。また参加を取り止める場合は同意撤回書を提出していただくことで管理する。診療情報開示システムについては、本システムへのアクセスの関して ID・パスワード及びデジタル証明書により、本システム参加事業者ごと許可した者に限りログインを許すことを前提とする。附則として 4 月 1 日から施行。

「飯田下伊那診療情報連携システム利用に係る個人情報取扱いガイドライン」について。ism-Link の使用にあたり、厚労省が定めた「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」によるほか、システムの活用に関して必要なルールを当ガイドラインで定めた。前述のとおり、患者及びその家族に同意をいただいて全ての事業を行っていくことを規定した。セキュリティ対策については、ism-Link の利用にあたり、システム参加事業者の長は情報の漏洩・滅失またはき損等を防止するため、7 項目に対する対策を講じなければならないものとする。

ism-Link 検証項目(案)について。当地域として次期更新後も維持すべき「情報インフラ」であるか否かを検証することが広域連合として任せられたため、これを設定する。検証作業は ism-Link 小委員会が実施する。現在 122 の医療・介護関係事業者が加入し、14,000 人を超える患者に登録をいただいている。この数値をさらに増やしていくことが課せられた使命である。検証の具体的内容 8 項目のうち「7 利用者の意見」については、医師・訪問看護・薬局・ケアマネ等関係職種向けアンケートを毎年実施し、利活用における課題を洗い出して改善に向けた対策を講じるための材料とし、これをもとに次期の更新に値するかどうかを検証していく。本年度は医師・訪問看護師を対象に実施した。来年度からは他職種を対象として、介護関係者や新たな加入者に対して実施する。

ism-Link 職種別閲覧可能項目一覧表(案)について。今回介護関係者に登録の門扉を開くことから、こういった情報の閲覧を許可するかを記載したもの。地域包括支援センター及び介護支援専門員につ

いては当面の間、看護・リハビリ・ファイル・連携シート・ノートといった項目に限定させていただき、今後については運用状況をみながら考えていきたい。

先月の広域連合会議で提案した「クラウド型EHR高度化事業」について。電子お薬手帳を究極の目的として薬剤師会が中心となって申請してきたが、残念ながら不採択の連絡を受けた。今回の事業提案をきっかけに、当二次医療圏が中心となって引き続き事業進捗ができるように、また新たな補助制度等の活用を考えながら取り組んでまいりたい。

【補足】（渡邊事務局長）

ism-Link 検証項目(案)の補足。次期サーバー更新に向けては、その費用についてが大きな課題である。その前提として、ism-Link 自体を継続していく価値があるかどうかを評価するための指標として具体的に設定したもの。毎年これに基づいてその年の状況を把握していくということ。その結果をふまえて、年1回程度は基幹病院の皆様方との懇談を考えている。

(6) 景観講演会について

…資料5による説明（渡邊事務局長）

5/20に飯田合同庁舎3階講堂にて開催予定。単に景観ということではなく、地域全体のあり方や生活といった点から景観というものを考えていきたい。非常に興味深い話が拜聴できると思う。また改めてPR等を行ってきたい。

【質疑なし】

(7) 南信州広域連合議会第1回定例会の反省について

…口頭による説明（渡邊事務局長）

一般質問1名で、議案等は予定どおり承認していただいた。議会との情報共有のあり方等については議員から提言・指摘をいただいたので、その点についてはさらに意を配っていかなければならない。首長の皆様方からも、議会の運営等についてや先般の定例会について意見・感想等を伺いたい。

【質疑なし】

(8) 飯田広域消防から

…資料7による説明（三石消防次長兼飯田消防署長）

3/5に発生した長野県消防防災ヘリコプター「アルプス」墜落事故の報告。13時33分に訓練のため松本空港を離陸した長野県消防防災ヘリコプター（操縦士1名・整備士1名・消防隊員7名が搭乗）が15時12分に松本市鉢伏山の山中に墜落しているのが県警ヘリにより確認され、搭乗者全員の死亡が確認された。長野県消防防災ヘリコプターは平成9年に運航開始され、県内全市町村で構成される長野県消防防災ヘリコプター運航協議会が設けられている。運航経費については、県が運航管理及び隊活動の経費を負担し、県内全市町村が消防職員派遣に要する費用を負担している。市町村の負担割合については、負担すべき経費の2分の1を人口規模、残りの2分の1を基準財政需要額の割合によって算出される。組織体制は、航空隊として操縦士3名・整備士3名・運航管理員1名・事務員1名、消防隊として消防吏員8名（県内13消防本部からの派遣）。火災・救急・救助活動や地震・水害等の緊急要請に迅速に機動的な活動を展開している。操縦士については現在1名体制となっており、県では操縦士の確保に苦慮している。平成27年から2名の操縦士を育成している。当県は3,000m級の山岳を抱えていることから、操縦には高度な技術が要求される。飯田広域消防からは平成13年～15年に1名、平成24年～26年に1名派遣した。今後の防災対策について、県では対応検討中とのこと。航空応援を必要とする災害が発生した場合には、当面の間は県警ヘリや相互応援協定を結ぶ隣接県に協力要請することで対応する。これからの時期に発生が危惧される山林火災等の対応については、広域消防として広報活動を強化すると共に、消防団等の関係機関と連携して迅速に対応してまいりたい。

28年度事業で整備した高森消防署配置の消防指令車1台及び山本分署・和田分署配置の高規格救急自動車2台について。諸元・特長・装備品等は資料参照。運用開始日は3/7(消防指令車)及び3/15(高規格救急自動車2台)。いただいた各車両については、今以上に注意を払いながら運用してまいる。

昨年10月に飯田広域消防が作成した防火カレンダーについて。「10月」の第4週の月曜日と火曜日の日付に誤りがあった。当カレンダーは約1,100部を配布しており、対応として訂正シールを作成して通知文と共に発送している。今後はチェック態勢を強化してまいる。心よりお詫び申し上げます。

【質疑なし】

(9) 「南信州いいむす21」登録判定について

…資料9による説明（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

審査の結果「適合」と認められた2件の登録をお認めいただきたい。区分については更新登録で初級2件。

【質疑なし…承認】

(10) 後援依頼について

…資料8による説明（北原事務局次長補佐兼庶務係長）

「うるぎトライアルRUN」（うるぎトライアルRUN実行委員会）の後援依頼。平成29年10月8日（日）、売木村内にて開催。開催要項については資料参照。こちらの事業については平成27年度も後援承諾している。後援の協議をお願いしたい。

【質疑なし…後援承諾】

4 長野県

●下伊那地方事務所

…口頭による説明（山本所長）

①民俗芸能の継承支援について。3/2には広域連合長に出席していただき、パートナー企業として新たに9社と協定を締結し登録証の交付を行い、合計18社がパートナー企業となった。3/9には銀座NAGANOにおいて南信州民俗芸能体感講習会を開催し、24名の参加をいただいて阿南町雪祭りをテーマに民俗芸能の素晴らしさや継承の大切さを理解していただいた。3/20には飯田市竜丘公民館において南信州民俗芸能継承セミナーを開催予定。多くの皆様の参加をお願い申し上げます。

②リニアを活かした地域振興策について、3/6に知事と地元経済界の皆様との間で意見交換会を開催する予定だったが、県消防防災ヘリの事故のため中止となった。再度日程調整して実施する予定。

③パスポートの夜間延長日の変更について。毎週火曜日・木曜日に開設している夜間延長窓口を、4月から毎週木曜日に変更する。それぞれの市町村には周知に協力していただき感謝申し上げます。

④4月から「南信州地域振興局」がスタートし、下伊那地方事務所は今月末をもって廃止となる。今まで以上に地域の課題に積極的に取り組み、皆様から頼りにされる振興局になるよう努めてまいる。

【質疑なし】

●飯田建設事務所

…口頭による説明（西元所長）

①平成28年度道路河川愛護活動の知事感謝状の贈呈について。当管内は4団体（喬木村大島区・泰阜村大畑区・松川町福与地区花いっぱい推進協議会・阿南町阿南第二中学校）に知事感謝状を伝達した。

②綿半飯田野球場のスコアボード及び内野スタンドのベンチを一部リニューアルした。3/16にはスコアボードの操作も含めて一般開放（13時～16時）を予定。皆様に気持ちよく使用していただきたい。

【質疑なし】

●飯田保健福祉事務所…なし

5 今後の日程

3月20日（月） 南信州民俗芸能継承セミナー 飯田市竜丘公民館

4月14日(金) 町村会・広域連合会議
4月22日(土) 信大共同研究講座開講式 10:00～
5月20日(土) 景観講演会 13:30～ 長野県飯田合同庁舎講堂

6 その他

【渡邊事務局長】

広域連合の今年度事業の概要について(資料11)。基幹事務事業以外にどんなことが動いているかということがわかりにくい状況があったため整理した。まだラフなものではあるが、今後もこのような形で何をどのように動かしていくのか、できるだけわかりやすい形で説明しながら、議論をいただける材料にしてまいりたい。

【牧野広域連合長】

最後に一言ご挨拶申し上げます。本年度も大変お世話になった。来年度も引き続き広域連合としてしっかりと役割を果たしていければと思う。

さて、渡邊事務局長におかれては、これまで2期(4年間)事務局長を務めていただいた。3月末をもって任期満了となる。大変お世話になったことを私からまずもって御礼申し上げます。事務局長の任を離れても広域連合について大所高所からいろいろなアドバイスをいただきたいと思う。それではこの場において一言ご挨拶をいただきたいと思う。

【渡邊事務局長】

足かけ9年8ヶ月、広域連合に関わらせていただいた。公務員という肩書きを持って40年となる。今までいろいろなことをやらせていただいたが、特にここ数年は大変ではあったが非常に充実していた。4月以降は、引き続き地域づくりには関わらせていただきたいと思っている。また改めて役場へご挨拶に伺わせていただくのでよろしくお願い申し上げます。長期間にわたりお世話になり御礼申し上げます。ありがとうございました。

7 閉会…15:53